

2014年6月6日。

国際連合人権高等弁務官  
ナバナセム・ヒレイ様。

私共は、約37年前に、中学一年生だった娘、めぐみ  
を、下校途中に、北朝鮮の職員によって拉致さ  
れた両親でございます。

この様な残酷な事が、一国の指導者の指令によつ  
て実行され、前途有望な罪なき多くの若者達の人生  
が打ち砕かれ、今尚、助けを求めて呻き苦しんで  
います。

命を尊く思う多くの人々の力と知恵に助けられ、今迄  
救出活動に励んで参りましたが、2002年に5人の  
被害者が、帰国出来ただけです。

しかし、今年一月下旬以降、北朝鮮問題を担当する  
外務省アジア大洋州局幹部が、ベトナム等を極秘  
に訪問し、国家安全保衛部の幹事と接触した  
と見られます。日朝協議の過程で、

「第三国での面会」に協力的だったと言います。

日朝両国は、3月30、31日に北京で局長級政府  
間協議を再会しました。

総理は、「対話と圧力」の微妙なかい取りを行う事  
でしょう。

いづれ一日も早く、この残酷な拉致問題が解決され、  
愛する子供達を抱きしめる日が来る事を願い、御支援、  
御尽力を賜わります様、お願い申し上げます。  
高等弁務官様、皆様の御健勝、御活躍を祈念  
申し上げます。

横田 滋  
早紀江